

ID No.	2051
研究課題名	子宮内膜脱落膜化に対するハイポキシアの制御
研究代表者	久保田 海雄 （東京医科大学・講師）
研究組織 受入教員 研究分担者	小沢 学 （東京大学医科学研究所・准教授） 小島 淳哉 （東京医科大学・助教）
研究報告書	
本研究の目的は、妊娠時子宮内膜脱落膜化に対するハイポキシアの影響をRNA干渉やRNA-seq解析などの分子生物学的手法により解析することである。 2018年度は以下の知見を得た。 ・子宮内膜間質細胞の初代培養においてハイポキシアは脱落膜化を阻害する。 ・ハイポキシアはハイポキシア誘導因子(HIF)ファミリータンパク、HIF1A、HIF2Aを誘導する。またHIF1Bは恒常的に発現している。HIF3Aは最適な抗体の入手が困難であった。 ・HIF1A、HIF2A、HIF3A、HIF1BのRNA干渉に成功した。 ・HIF2AおよびHIF1Bのノックダウンはハイポキシアの影響をレスキューする。 今後、RNA-seq解析によりハイポキシアおよびHIFに制御される標的因子を特定する。	